



小林千寿の

欧州便り

碁“GO”スケッチ

総勢130名位が集った。年齢は9歳から高校生まで。

一番上の棋力が三段（日本の五段位）下が20級（日本の13級位）結果は一番速く10時間かけて、会場に辿り着いたミュンヘンの高校生達であった。

この大会での優勝グループの主将はインターネットでプロ棋士と対局をする榮譽が待っている。

その榮譽を勝ち得たQIAN君（17歳）は4級。中国系のドイツ人でドイツ語はもちろん中国語、英語、フランス語を流暢に話しピアノも弾きこなす、利発な好青年である。

最終局では昨年、美少女と思っってしまったほどの三段のOBEN AUSA君（14歳）に完敗したけれど、他の2人が頑張った。

団体戦ならではのことである。ドイツでも昨春秋に『ヒカルの碁』が単行本で翻訳されて、出版された。そして、月刊マンガ雑誌にも連載されている。

ドイツにも碁熱が若者達に伝わり始めたところだ。

3回ハンズ・ピーチ・メモリアルトーナメントが9月24日、25日ドイツ、デュッセルドルフからキョロ北のカストロップ・ラクの高校で開催された。その辺りは工業地帯で、巨大な煙突の白い煙がモクモクと出ている。大会は故ビーチ六段を偲び、若者達の育成を願った大団体が主催している。今年からGOSCHHOLの団体戦で72名の選手が参加し予備軍のこどもたち、コア家族にスタッフ。



著者にあたる碁指導打ち多面でトーナメント・メモリアル・ハンズ

の波に乗って『ヒカルの碁』で興味を持つこどもたちが急増している。

しかし、それに、対応できるを教える人、碁が打てる場所が界中で不足している。

それにしても、こんな時代が来ているというのに、『世界にを広めよう』と語り合ったハン君がいなのが、未だに信じられない。

ドイツのこどもたちに囲まれがら、過去と現在と未来が交錯する。

「ハンズ・ピーチ・メモリアルトーナメント」私には辛く哀しい大会閉会の折、こどもたちが私してくれた長い長い拍手が今で心に響く。

最後に今大会を運営してくれドイツ囲碁協会、GOSCHHOL基金、ホスト校のTIMM多くの方々の多大なボランティア感謝します。

重野由紀二段にも多大な感謝また来年、会えることを楽しみにしています。

そのこどもたちに碁を教えている学校の先生達と碁の教え方等を話したが、先生達は初段前後で特別強い訳ではない。皆、教え方は試行錯誤である。しかし、ハンブルグとベルリンはやはり大都会だけあって熱心に碁を教えている人達が何人かいて、確実に多くのこどもたちが育っている。今、世界中の日本マンガブーム